

第4章 金沢区心部におけるまちづくりの展開

1 まちづくりの段階的な展開

(1) まちづくりの段階的な展開

第3章のまちづくり方策を推進するためには、老朽化した建物の更新など、まちに変化が生じる機会を的確に捉えながら、段階的・連鎖的にまちづくりを推進する必要があります。

具体的には、次のような機会を捉えながら、まちづくりを段階的・戦略的に展開することで、区心部の魅力向上を目指します。

〈当面〉～既存資源活用による魅力向上・発信とまちづくりの機運醸成～

最初のステップとして、「まちづくり方策1 地域資源を生かしたまちづくり・地域の魅力発信」に取り組みます。

まずは、身近な公園や広場などの既存の公共的空間について、地域の担い手と連携し、地域のイベント・マルシェ、交流活動など区民ニーズに応じて積極的な活用を促進します。また、地域資源を生かした新たなアクティビティも創出していきます。

こうした取組により、区民にとって居心地の良い場や機会を増やしていき、区心部の魅力向上を図るとともに、その情報を発信します。こうした取組のプロセスを通じて地域や人のつながりをつくりながら、区心部のまちづくり機運を高めます。

〈短期～中期〉～小・中規模な土地利用の更新等のタイミング～

当面の取組に加え、地域内の空家の発生や、UR住棟跡地などの地域内の小・中規模の建物・土地の更新機会を捉えて、「まちづくり方策2 暮らし・滞在を豊かにする機能やサービスの誘導」や「まちづくり方策3 まちの基盤の段階的な改善」に取り組みます。

地域の担い手や事業者・地権者等との協力・連携により、イベント開催など区民が主体的に活躍できる活動の場や日常的に交流できる場の創出、地域ニーズを捉えた施設やサテライトオフィスなどのワークスペースの誘導を図ります。また、地域資源を生かした魅力的な歩行者空間や広場の創出を促します。

さらに、既存の公共交通の改善や新たな交通手段の試行などを通じて、区心部へのアクセス性の向上を図ります。

こうした取組により、区民の生活を豊かにし、来街者にとっても楽しめる環境を整えていきます。

〈中期～長期〉～大規模な土地の更新のタイミング～

当面～中期までの取組に加え、国家公務員宿舎等の大規模な建物や土地の更新時期にあわせて「まちづくり方策2 暮らし・滞在を豊かにする機能やサービスの誘導」や「まちづくり方策3 まちの基盤の段階的な改善」の取組を広げていきます。

事業者・地権者等との連携により、大規模な土地の有効利用を図り、区心部における多様な暮らし方や働き方の実現を目指します。

また、駅から区役所までの交通利便性、区心部周辺の観光施設等からの交通利便性を向上させるとともに、観光施設等と連携することにより、区民だけでなく広域からの来街者の滞在につなげ、交流人口を増やします。

(2) まちづくりのターゲットの段階的な拡大

まちづくりのターゲット（対象）としては、区民（地域住民）及び区外からの来街者（区内への通勤・通学者、観光等で滞在を楽しむ人等）が考えられ、まちづくりにあたっては、誰のためかという視点を持ちながら取組を推進することが重要です。

区心部のまちづくりにおいては、まずは区民（地域住民）が自分の住むまちに愛着を感じ、住み続けたいと思うまちづくりを優先的に進め、こうした取組により区の魅力が向上することで、ひいては区外からの来街者にとっても魅力あるまちの成長につなげます。

そこで、まちづくりを進める際には、まちづくりのターゲットも段階的に拡大していくことで、集中的・効果的なまちづくりを目指します。

〈ターゲット1〉区民（地域住民）が心地よく暮らせるまちづくり

区民（地域住民）が心地よく暮らせることを第一に、住民を対象としたまちづくりを展開します。

〈ターゲット2〉区内への通勤・通学者が心地よく暮らせるまちづくり

ターゲット1の区民（地域住民）に加え、金沢区の特徴でもある、区外からの通勤者・通学者がより金沢区での滞在を充実できるよう、こうした人々を対象としたまちづくりを展開します。

〈ターゲット3〉遊びに来る人(観光等に訪れる人)がより金沢区での滞在を楽しめるまちづくり

区民（地域住民）や通勤・通学者が心地よく暮らし、滞在を充実させることで、金沢区の魅力はさらに高まり、区外からも認知されることを目指します。さらに区外から観光等で訪れる来街者にとっても金沢区での滞在をより楽しめるようまちづくりを展開していきます。

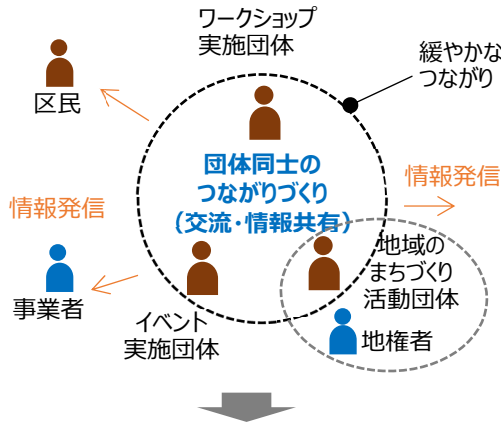
2 まちづくりの担い手

まちづくりを推進するためには、地域活動団体を含む区民、事業者や地権者、行政、大学の、それぞれの担い手が次のような役割を担うとともに、まちづくり機会に応じて担い手同士が緩やかに連携・協働して取り組むことが大切です。



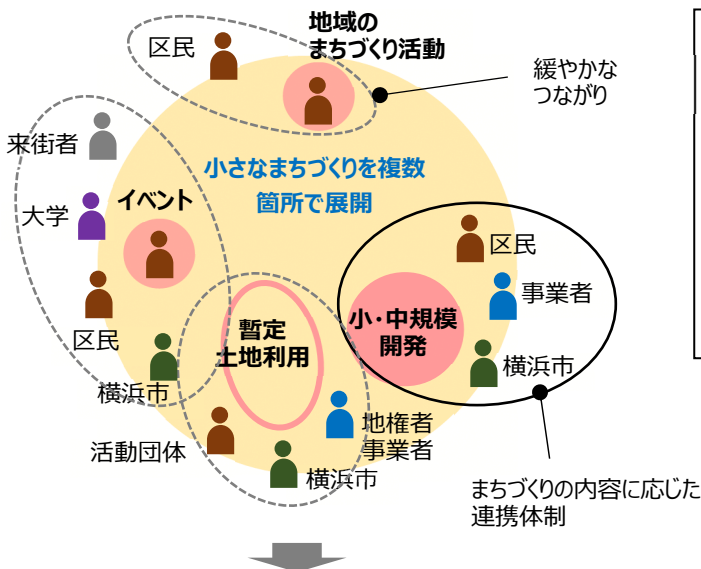
担い手連携による段階的なまちづくりイメージ

〈当面〉地域の活動団体同士のつながりづくりや情報発信を通じ、まちづくり機運を高める



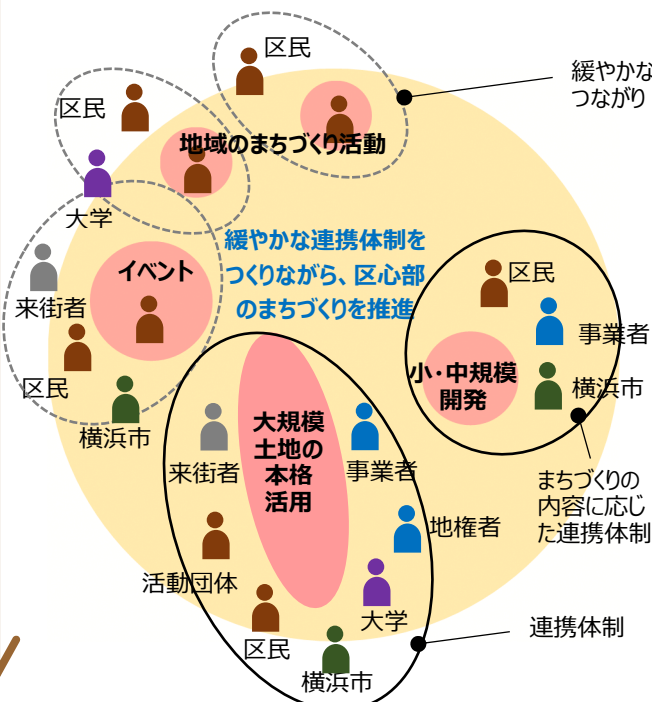
- ・公共空間等でイベント等を企画する団体やまちづくり活動を行う団体同士がつながり、地域での活動等まちづくりに関する情報を共有・交流することで、新たな活動へつなげる。
- ・活動の輪を広げつつ情報発信を通じて、区心部のまちづくり機運を高める。

〈短期～中期〉多様な担い手と緩やかに連携を図りながら、小さなまちづくりから着手する



- ・小・中規模の土地利用・建物の更新、暫定的な土地利用の試行、新たなまちづくり活動の創出・拡大など、小さなまちづくりを複数箇所で展開。
- ・そのまちづくりの内容に応じて多様な担い手と緩やかに連携を図り、区心部のまちづくりについて考えていく。

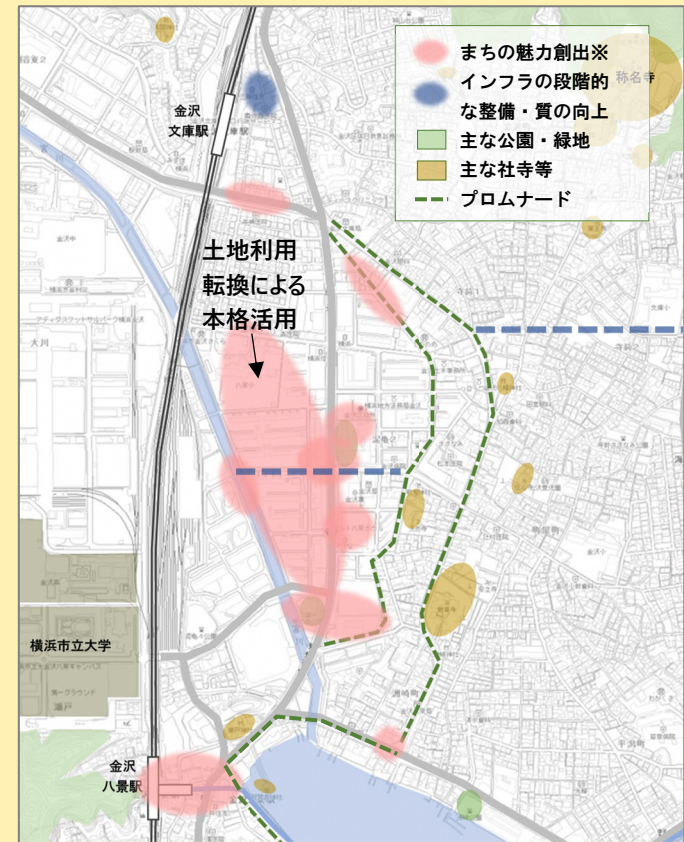
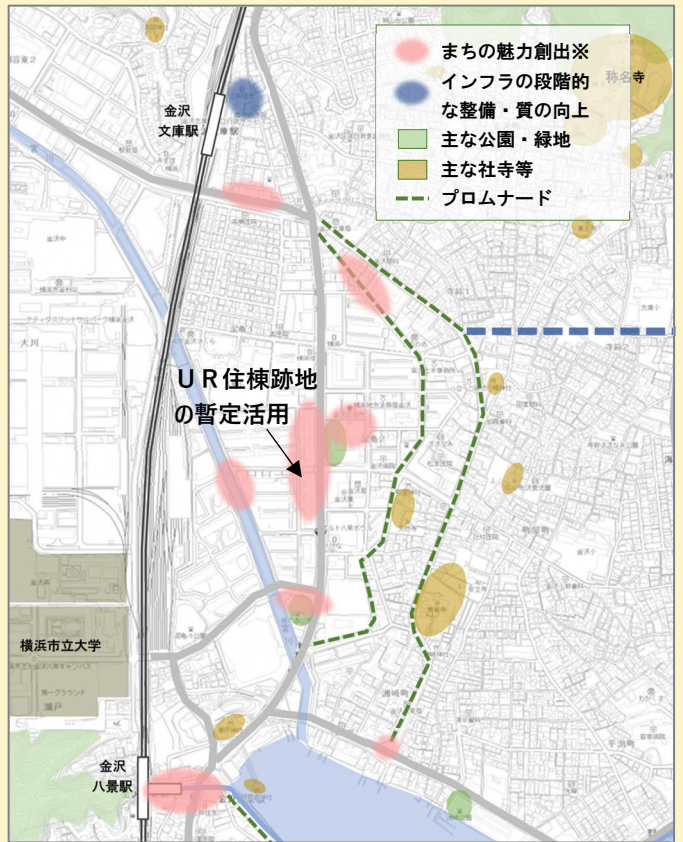
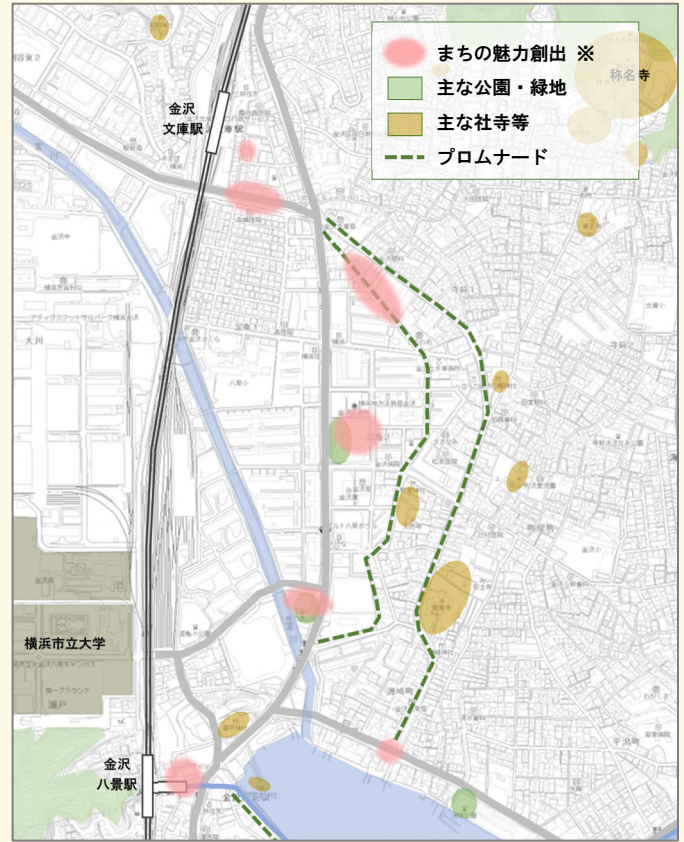
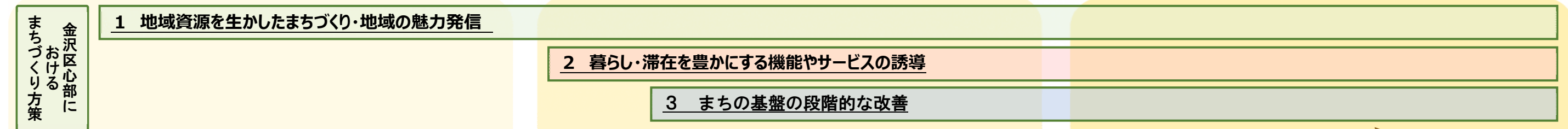
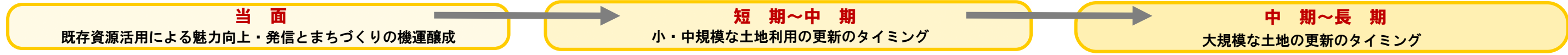
〈中期～長期〉まちづくり機会を捉えて緩やかな連携体制をつくり、まちづくりを更に推進



- ・大規模な土地利用の転換機会をとらえ、まちづくりを進める。
 - ※事業者・地権者：地域ニーズ等を踏まえながら地域ポテンシャルの向上を図るまちづくりを推進
 - ※活動団体・区民：地域活動等、主体的にまちづくりに参加、多様な暮らし方を実践
 - ※横浜市：事業者等と進めるまちづくりの技術的支援、公共事業等を推進
 - ※大学：まちづくり活動を学術的に支援
 - ※来街者：金沢区の魅力を発見、リピーターになる
- ・多様な担い手と連携・協働しながら、まちづくり範囲を広げつつ重層的にまちづくりを展開し、区心部の魅力を向上させる。

まちづくりの担い手が連携・協働することにより、区心部の魅力を向上

3 まちづくりの展開イメージ



※「まちの魅力創出」場所はイメージであり、具体的な土地や計画を示すものではありません

